

所属：教育学部・教育学研究科 社会科教育

教授 大坪 慶之 (おおつぼ よしゆき)

カテゴリ) 歴史・社会・地理・文化

《一言アピール》 これからの日本にとって、中国をはじめとするアジアを理解することは大切です。本研究室では、それを歴史的な角度から取り組んでいます。

研究テーマ

Research Themes

■ 清末(19世紀後半)における清朝中央の政策決定過程

清末(19世紀後半)の中国では、皇帝が幼少だったこともあり、西太后が強い権限を握っていたと言われていいます(垂簾聽政と呼ぶ)。この時期の清朝中央における政策決定過程から、垂簾聽政とはどのような体制だったのかについて考えています。

所属学会

- 史学会
- 東方学会
- 歴史学研究会
- 満族史研究会

論文

- 「イリ問題にみる清朝中央の政策決定過程と総理衙門」『東洋史研究』70-3、2011年、pp.39-68
- 大坪慶之(著) 田由甲(訳)「有関光緒帝親政開始問題的清朝中央決策過程」『日本中国史研究年刊 二〇〇九年度』上海、上海古籍出版社、2011年12月、pp.187-218
- 「光緒帝の親政開始をめぐる清朝中央の政策決定過程」『歴史学研究』853、2009年、pp.16-32
- 「清仏戦争前夜における清朝中央の外交政策決定過程」『東洋学報』90-3、2008年、pp.1-30

翻訳

- 張永江(著) 大坪慶之(訳)「近百年來における中国の清史編纂事業と最新の進展状況(下)」『満族史研究』5、2006年9月、pp.1-27(原語：中国語)

その他著作

- 書評：「岡本隆司・川島真(編)『中国近代外交の胎動』」『史学』79-1・2合併号(三田史学会)、2010年3月、pp.197-209.
- 「南京八卦洲の旗地に対する権利について」片山剛(編)『近代東アジア土地調査事業研究ニュースレター』4、2009年3月、pp.64-75
- 「南京市房産档案馆収蔵の民国期地政資料について—『南京市旧地籍図』を中心に—」片山剛(編)『近代東アジア土地調査事業研究ニュースレター』4、2009年3月、pp.136-148.
- 「台湾収集の民国期南京における旗地関係档案」片山剛(編)『近代東アジア土地調査事業研究ニュースレター』3、2008年3月、pp.79-90
- 大坪慶之・山本一・片山剛・荒武達朗(共著)「台湾収集の地形図および地籍図について——その分析・活用と資料的価値——」片山剛(編)『近代東アジア土地調査事業研究ニュースレター』2、2007年3月、pp.121-140
- 大坪慶之・片山剛(共著)「2006年南京市江心洲調査報告」片山剛(編)『近代東アジア土地調査事業研究ニュースレター』2、2007年3月、pp.141-156.

主な参加プロジェクト

- 中華民国期の土地調査事業に関する研究プロジェクトに参加(地図の収集や聞き取り調査など)

社会活動

- 「清朝の統治構造と現代中国」津西高校一日総合大学、2011年9月(於：津西高校).
- 大坪慶之・後藤敦史「日中双方からみた政治・外交史」神奈川県高等学校教科研究会社会部会歴史分科会～高大連携の試み「近代東アジア世界をどう教えるか」、2008年8月(於：栄光学園高校).

関連ホームページ

- 三重大学教育学部社会科教育コース <http://www.edu.mie-u.ac.jp/outline/fc-introduction/shakai/index.html>
- 三重大学教員紹介 <http://kyoin.mie-u.ac.jp/profile/2633.html>

☆詳細は、HPをご覧ください。